

先進性・独自性のある 教育プログラムの開発



Hondaでは、時代や社会などの環境ニーズに先駆けた新たなソフトウェアの開発を推進しています。そして、先進性・独自性のある教育プログラムや教育機器、教材などの普及に努めています。

体験を通じて、クルマの安全技術を 正しく理解してもらう

「シティブレーキアクティブシステム(以下、CTBA・P3参照)」は約30km/h以下での前方車両との衝突の回避・軽減を、低速域衝突軽減ブレーキで支援。前方に障害物がある状況で、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、急な発進を抑制する誤発進抑制機能(MT車を除く)も備えています。ただし、運転の主体はドライバーですから、こうした安全技術をお客様に正しく理解していただくことが必要になります。そこで、CTBAの体験を通じて効果的な安全教育を行うためのプログラムを開発中です。来年以降、Hondaの交通安全センター(P23参照)での企業研修やスクールなどへの導入を皮切りに、普及拡大をめざしていく予定です。

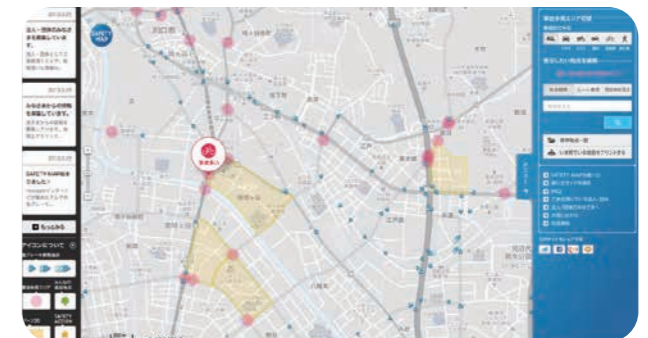


お客様を対象としたCTBA体験会の様子

「SAFETY MAP」の 新たな活用に向けた取組み

「SAFETY MAP」は運転者のみならず、歩行者・自転車利用者も含めたすべての交通参加者がパソコンやスマートフォンで自由に活用いただくことを目的に制作しました。MAP上にはHondaインターナビ(Hondaが開発した双方向通信型カーナビ)から収集した急ブレーキ情報、警察や(公財)交通事故総合分析センターから提供いただいた交通事故情報、地域にお住まいの方々の投稿の3種類の情報、そして警察庁から提供いただいたゾーン30*情報が掲載されています。これらの情報をその地域で生活するすべての方々があらかじめ知ることで未然に事故を防ぎ、安全な街づくりに貢献したいという思いを込め開発しました。埼玉県では「SAFETY MAP」を活用して危険箇所を洗い出し、交通安全対策(道路改善)に役立てるなど、自治体での活用も進んでいます。安全運転普及活動の取組みとして、このMAPを更に活用するため、「SAFETY MAP」から抽出された危険箇所を実際に観察し、道路環境の改善に向けた提言活動をスタートし、それを交通安全情報紙「SJ」で発信したり、JAF((一社)日本自動車連盟)埼玉支部とも連携し活用を推進いただく予定です。また、交通行政や識者の方々とも連携しながら、新たな利用拡大の研究・開発を進めていく予定です。

*歩行者や自転車優先される生活道路の安全対策として、区域内の道路を最高速度30km/hに制限した上で、ゾーンの入り口やゾーン内に標識および路面標示を整備して事故の防止に役立てるためのもの。



パソコン用「SAFETY MAP」(イメージ)。以下のホームページでご覧いただけます。<http://safetymap.jp/>



埼玉県では「SAFETY MAP」の情報をもとに路面表示の追加など道路改善を実施

Hondaの交通安全情報紙「SJ」では4月より「SAFETY FOCUS」というコーナーを設け、道路環境の改善に向けた提言を発信



交通指導員の方々の知識と経験を 新たな教材の開発に活かす

Hondaは、地域の指導員の方々の意見交換やそれぞれの活動報告を通じて指導力の向上に役立ててもらうために、情報交換会や合同研修会を定期的に開催しています。今年は新たな試みとして、全国5カ所で交通指導員116名の方々とHondaによる「教材研究会」を実施しました。現場で指導を担う方々の知識・経験と、Hondaのノウハウを組み合わせることにより、効果的で使いやすい教材を開発に結びつけることが目的で、この研究会はその第一歩です。研究会では、グループごとに子どもや高齢者への教育に活用できる教材をテーマに討議。現状の指導内容や手法の課題について共有し、そうした課題を解決するために有効と考えられる教材のアイデアを出し合っていました。参加した交通指導員の方々からは「少人数での討議だったので、他の地域の方とじっくり意見交換ができて有意義でした」「教材の開発に携われるということで参加しました。



福島県で開催された「北関東・東北地区指導員教材研究会」

私たちの声が少しでも反映されたら、うれしい」という声が聞かれました。各地の研究会で収集したアイデアや意見は、今後の交通安全教材の参考とし、新たな教育プログラムの開発に活かしていく予定です。